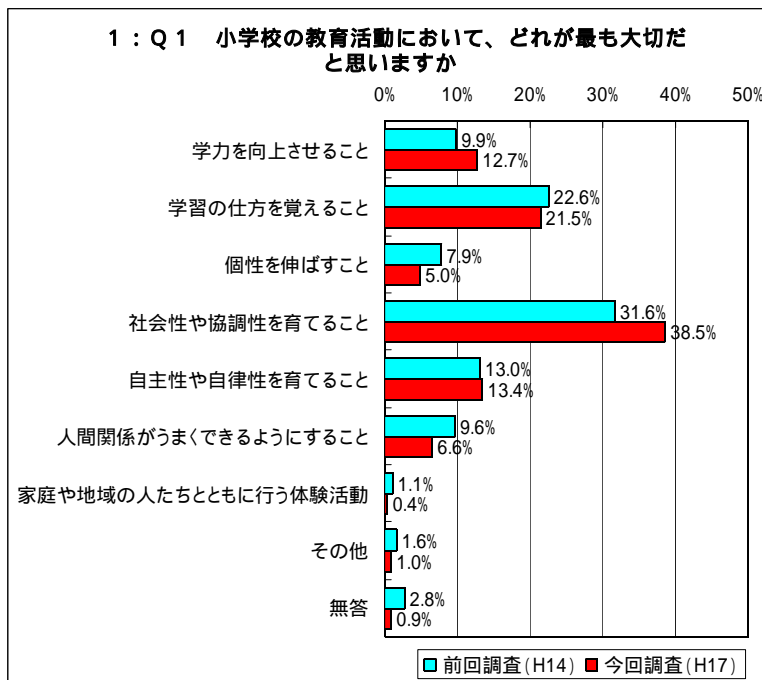


# 1 学校の教育活動において大切なもの

保護者 1 学校の教育活動において、最も大切なものは何だと考えますか

⇒ 小・中「社会性・協調性」、高「学力の向上」、盲聾養「社会参加できる自立心」 小・中・高・盲聾養 Q1・Q1・Q1・ Q1

## 小学校



## 《小学校》

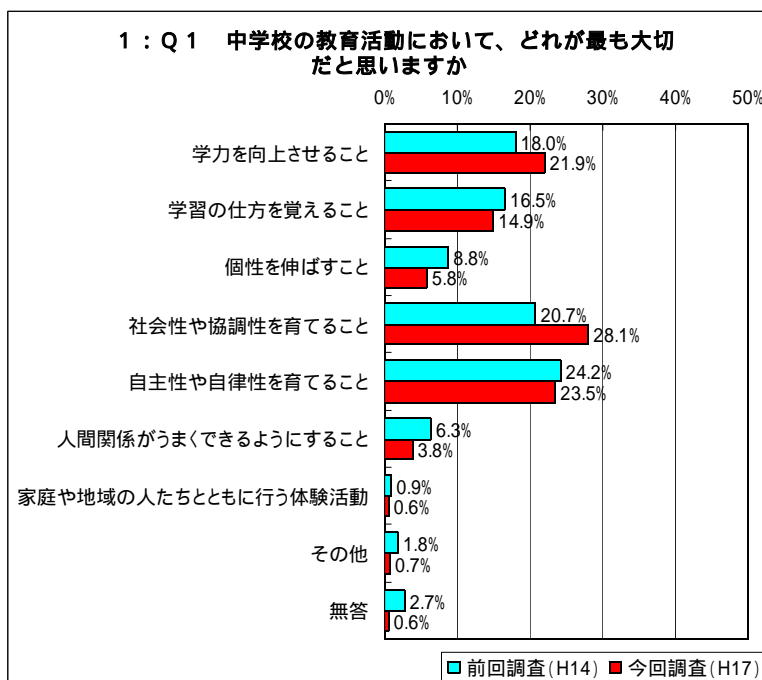
「社会性や協調性」が4割近くに増加し、前回に引き続き一番多い。「学習の仕方」も2割を超えている。

「個性伸長」や「人間関係」が減少し、「学力向上」が増加しているが、「学力向上」や「学習の仕方」等、学習に係る項目は、1～2割と、低い割合となっている。

「個性伸長」を始め、個に関わる内容よりも、「社会性や協調性」の割合が大きいことから、個よりも、まず集団の中で他の人とどのように関わっていくか、ということをお大切に考える保護者が増加傾向にあるといえる。

【参考】担任 1

## 中学校



## 《中学校》

小保護者と同様に「社会性や協調性」が、前回より大きく増加し、3割近くを占める。

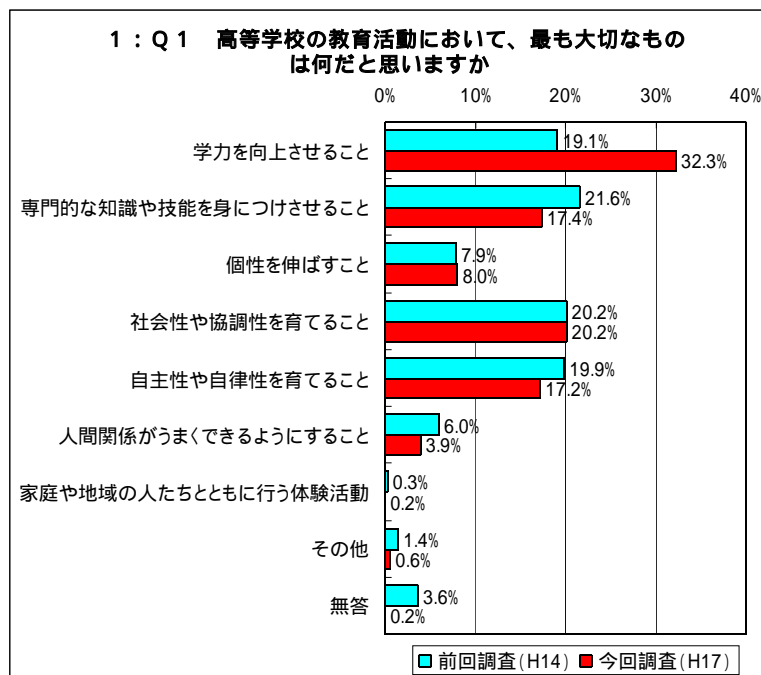
「学力向上」も増加し、「自主性や自律性」とともに2割を超えている。

「個性伸長」や「人間関係」は、前回より減少している。

「自主性や自律性」とともに「社会性や協調性」を重視する傾向は、小保護者と似ているが、中保護者の特徴として、前回より「学力向上」を重視していることがうかがえる。

【参考】担任 1

## 高等学校



## 《高等学校》

他の選択肢が、前回と同じ程度か減少している一方で、「学力向上」が大きく増加している。

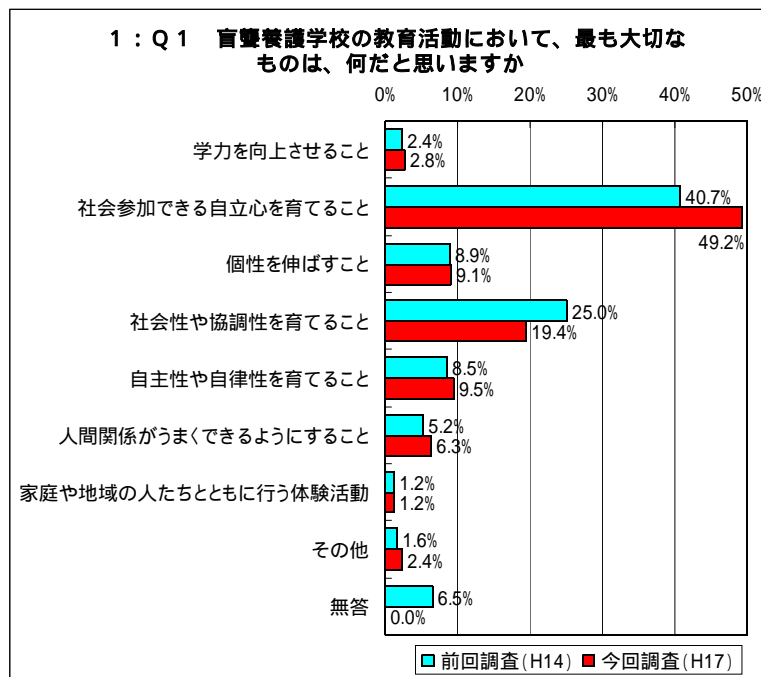
「専門的な知識や技能」「自主性や自律性」が2割を下回り、「個性伸長」「人間関係」も1割を下回り 低い割合となっている。

学力向上への期待の大きさがうかがわれる。

他の校種にもみられるように、「個性伸長」や「人間関係」よりも「学力向上」「専門的な知識や技能」「社会性や協調性」など、社会に出て、自分の能力が発揮できるような、或いは自己の成長を促すような教育活動を重視していることがうかがえる。

【参考】担任 1

## 盲聾養護学校



## 《盲聾養護学校》

前回、一番多かった「社会参加できる自立心の育成」が増加し、半数近くを占めている。

「社会性や協調性」が減少し約2割となっている。他の選択肢は、1割を下回り、前回とほぼ同じ傾向を示している。

「社会参加できる自立心の育成」や「社会性や協調性」など、校種の特長上、社会生活を営むことができる人間の育成に大きな期待を寄せていることがうかがわれる。

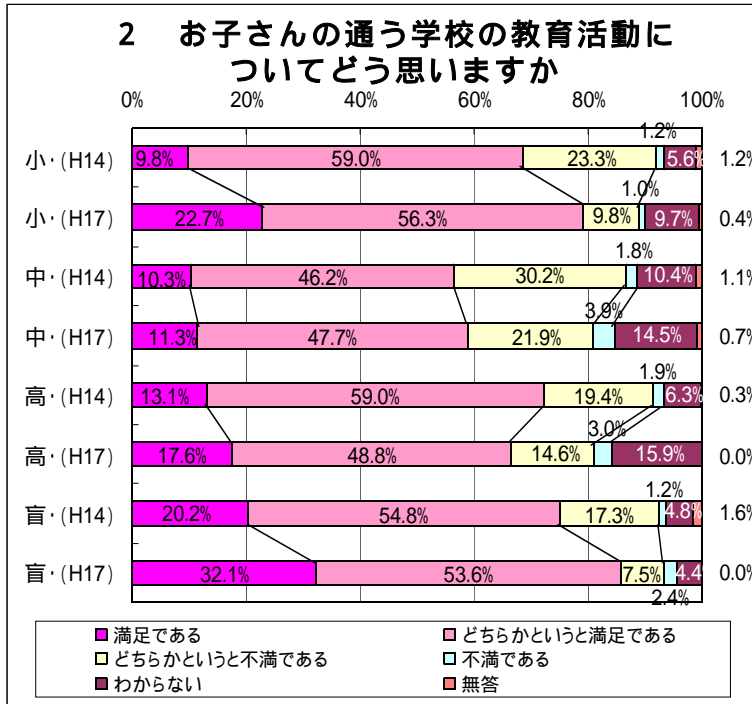
【参考】担任 1

## 2 子どもが通う学校の教育活動について

保護者 2 お子さんが通っている学校の教育活動について、  
どのように考えますか

⇒ 「満足」小・盲聾養約 8 割、中・高 6 ~ 7 割

小・中・高・盲聾養  
Q2・Q2・Q2・ Q2



高保護者の肯定的な回答が前回より減少しているが、他の校種では増加している。小保護者、盲聾養保護者では約 8 割、中保護者 6 割、高等学校 7 割弱。盲聾養保護者の「満足である」が大きく増加している。

一方、特に中保護者、高保護者における「わからない」の割合が増加傾向にある。

小・高・盲聾養保護者は、おおむね満足していることがうかがえる。

また、中保護者は 2 割以上が満足しておらず、高保護者とともにその要因について、把握する必要がある。

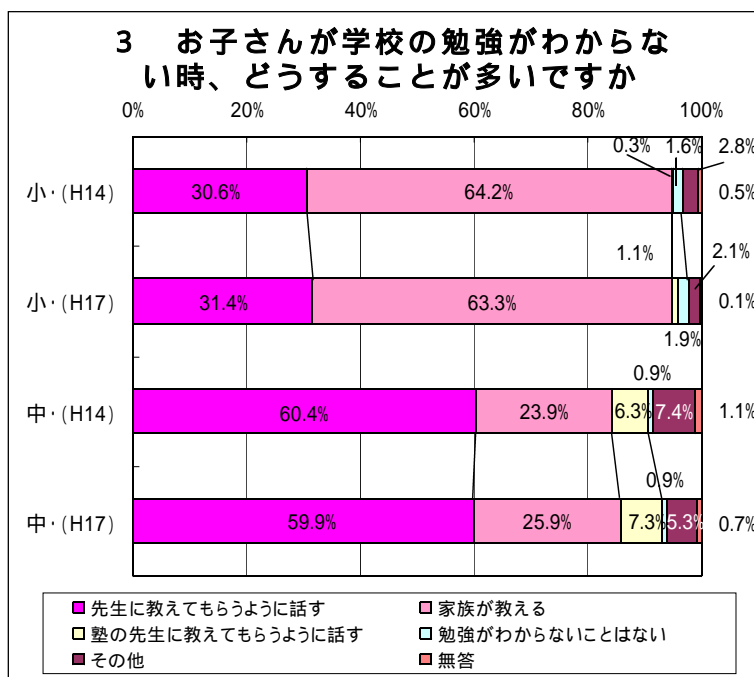
【参考】担任 1

## 3 子どもが通う学校の学習について

保護者 3 - お子さんが、学校での勉強がわからないとき、  
どうすることが多いですか

⇒ 「家族が教える」小学校 6 割、中学校 2 割強

小・中  
Q3・Q3



小保護者の 9 割のうち、「先生が」3 割、「家族」が 6 割を超え、前回と同じ傾向である。

中保護者の 8 割強のうち「先生」が 6 割、「家族」が 2 割強を占め、前回とほぼ同じ傾向にある。

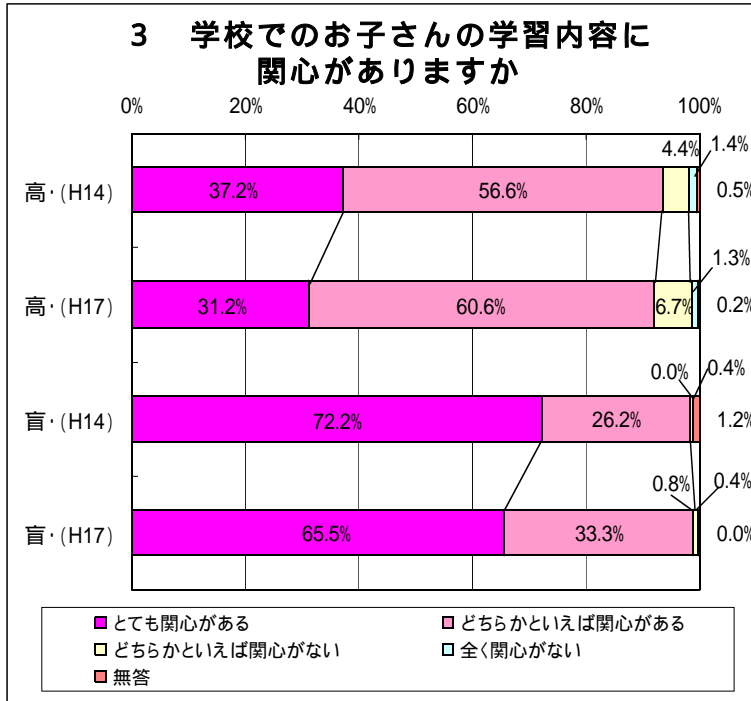
小保護者、中保護者とも前回と同じ傾向である。「先生」「家族」の比率が異なっており、中学校になると家族が教えることが困難な内容が増え、「先生」或いは「塾」に頼る傾向がみられる。

【参考】児童生徒 3、担任 2

保護者 3 - 学校での学習内容に関心がありますか

高・盲聾養  
Q3・Q3

⇒ 「強い関心」、盲聾養の6割、高は3割



高保護者は、肯定的な回答がやや減少したが9割を超えている。「とても関心がある」の割合が減少している一方、「どちらかといえば関心がない」が、わずかに増加している。

盲聾養保護者では、ほぼ全員が「関心がある」回答している。

高保護者の回答では、「どちらかといえば関心がある」が6割を占めるが、盲聾養保護者では、「とても関心がある」が6割を超える。

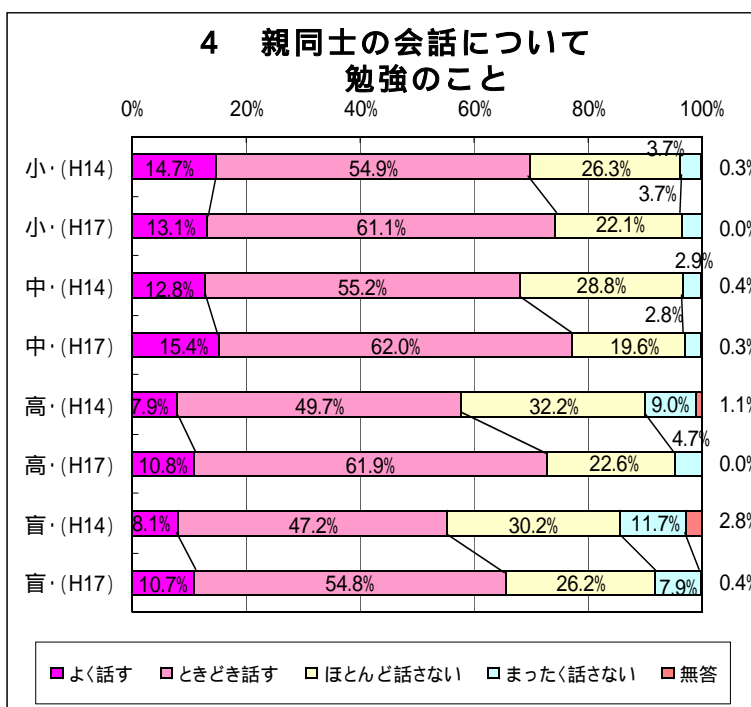
学習内容について、高保護者、盲聾養保護者とも高い関心を示しているが、温度差がみられ、盲聾養保護者が、より強い関心をもっていることがうかがわれる。

4 親同士の会話で、次の内容についてどの程度話していますか

保護者 4 - 勉強のこと

小・中・高・盲聾養  
Q4・Q4・Q4・Q4

⇒ 7割の保護者が話題に



各校種とも前回より、肯定的な回答が、7割前後まで増加している。また、各校種の傾向も似ている。

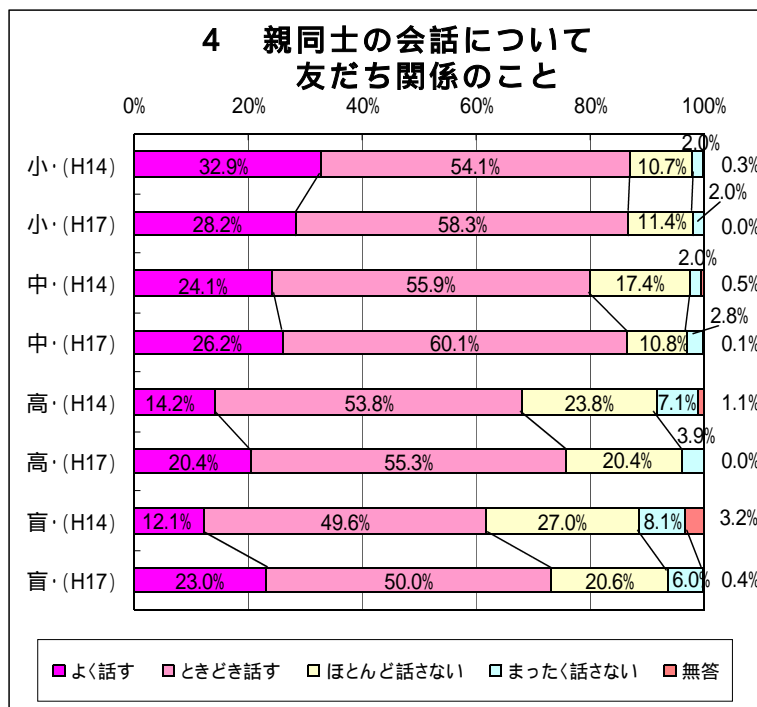
高保護者、盲聾養保護者にみられる「まったく話さない」が、減少傾向にある。

親同士の会話で、勉強のことを話題にすることについて、校種により差はみられるものの、前回より話題にする保護者が増加していることは望ましい傾向といえる。

保護者 4 - 友だち関係のこと

⇒ 小・中 9 割、高・盲聾養 7 割が話題に

小・中・高・盲聾養  
Q5・Q5・Q5・ Q5



中保護者、高保護者、盲聾養保護者の肯定的な回答が、前回より増加している。小保護者、中保護者では 8 割を超え、高保護者、盲聾養保護者も 7 割を超えている。

「よく話す」割合は、小保護者が多く、中・高保護者と減少している。

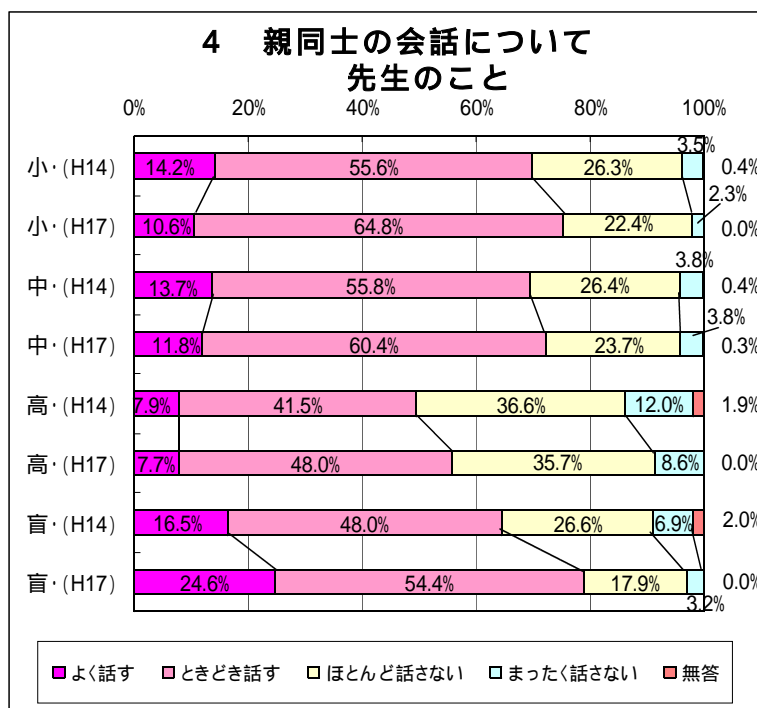
全体的に、肯定的な回答が前回より、増加傾向あるいは高い割合であり、前問の勉強のことよりも高い関心を示していることがわかる。

特に、小保護者では、他の選択項目の中で、「話す」と回答した割合をみると、「友だち関係」が一番多いことから、関心が高いことがうかがえる。

保護者 4 - 先生のこと

⇒ 小・中・盲聾養 7 ~ 8 割、高 6 割弱が話題

小・中・高・盲聾養  
Q6・Q6・Q6・ Q6



どの校種も、前回より肯定的な回答が増加している。盲聾養保護者が 8 割弱、小・中保護者が約 7 割、高保護者が 6 割弱である。

「まったく話さない」も高保護者、盲聾養保護者における割合が前回より減少している。

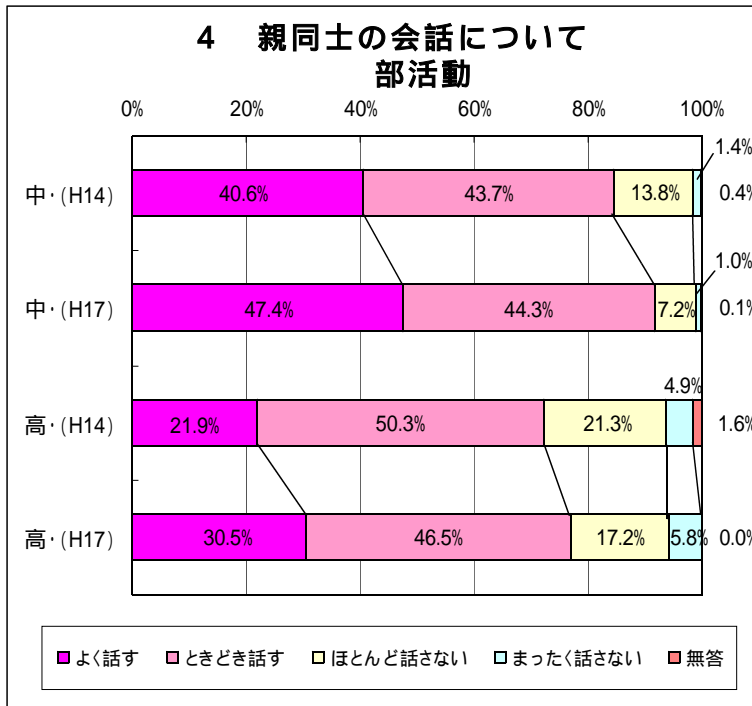
盲聾養保護者は高い関心を持って話題としていることがわかる。

一方、特に高保護者において、4 割以上が「話さない」と回答しており、「先生」は、あまり関心の高い話題とはいえないことがうかがえる。

保護者 4 - 部活動のこと

⇒ 高い関心度、中保護者の9割、高保護者の8割弱

中・高  
Q7・Q7



中保護者では、前回より肯定的な回答が増加し、9割を超えている。

高保護者でも、前回より肯定的な回答が8割近くまで増加している。一方、「まったく話さない」が、やや増加傾向にある。

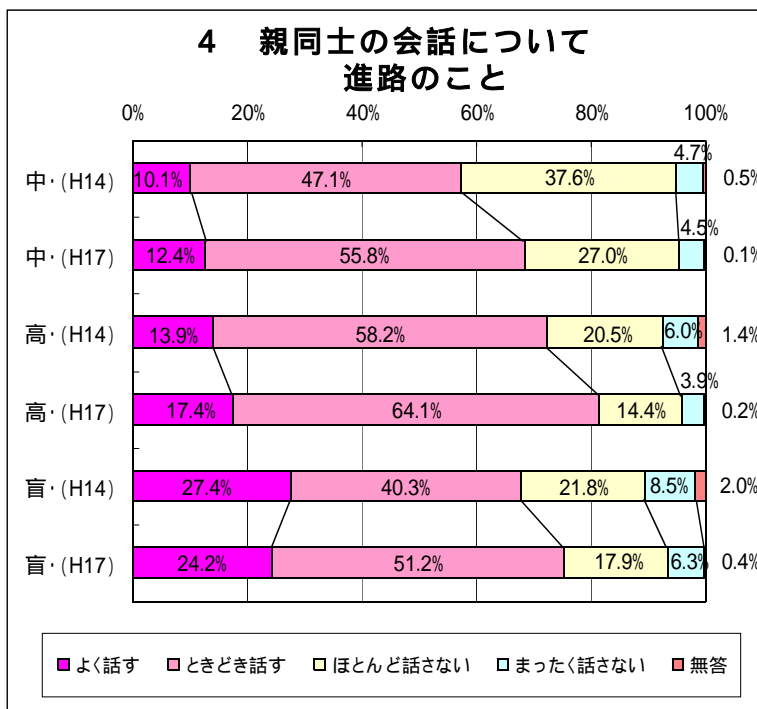
中保護者は、部活動の話題について、「勉強」「友だち関係」等その他の質問項目と比較しても、肯定的な回答の割合が一番高く、部活動に対するの関心の高さがうかがわれる。

高保護者も中保護者ほどではないが、部活動に対して比較的高い関心を示していることがわかる。

保護者 4 - 進路（卒業後）のこと

⇒ 高保護者が高い関心、8割を超える

中・高・盲聾養  
Q8・Q8・Q7



どの校種も、肯定的な回答が前回より増加している。中保護者では約7割、高保護者では8割を超える。盲聾養保護者では、「よく話す」がやや減少しているものの、肯定的な回答が増加し7割を超えている。

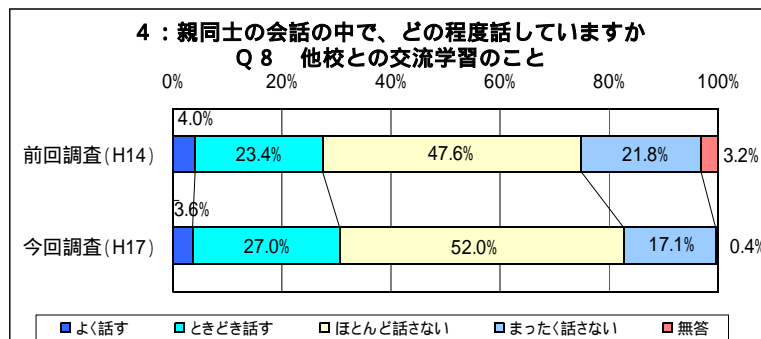
卒業後の進学希望が増える傾向にある中、高保護者の関心がとても高いことがうかがえる。一方で、中保護者の割合は、高保護者ほどではないことから、進路に関する社会的な状況等の違いによるものと思われる。

盲聾養保護者についても、校種の特性上、関心の高さがうかがわれる。

保護者 4 - 他校との交流学習のこと

盲聾養  
Q8

⇒ 話題にするのは3割程度



前回より、肯定的な回答が増加しているが、3割程度である。

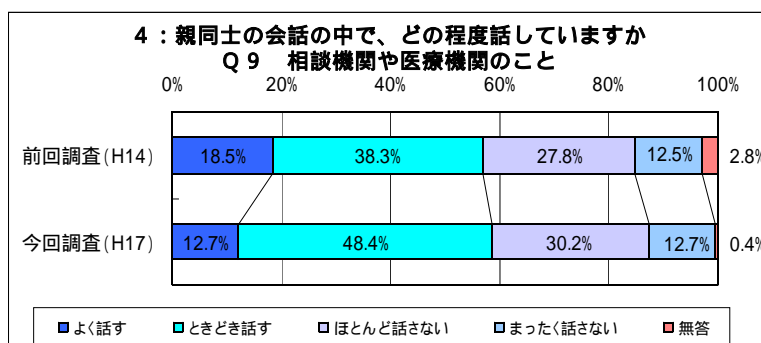
他の質問項目と比較して一番低い割合となっていることから、「他校との交流学習」について、関心の高い話題ではないことがうかがわれる。

【参考】児童生徒 5 -  
担任 5 -

保護者 4 - 相談機関や医療機関のこと

盲聾養  
Q9

⇒ 盲聾養保護者の6割が話題



「よく話す」が前回より減少しているが、肯定的な回答が、やや増加し、約6割である。

「相談機関や医療機関」について、他の質問項目の回答よりも低い傾向にあり、校種の特性にかかわらず、関心の高い話題ではないことがうかがわれる。

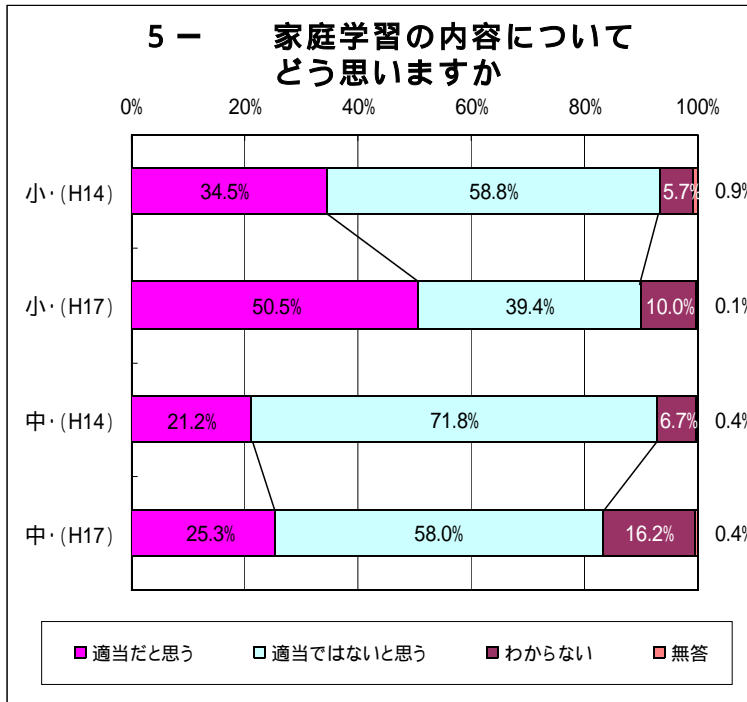


## 5 家庭学習について

保護者 5 - お子さんの家庭学習の内容

⇒ 「適当」は、小保護者 5 割、中保護者 3 割弱

小・中  
Q7・Q9



小保護者では、前回より、「適当」という回答が大きく増加し、半数を超えている。「適当ではない」が大きく減少しているが、依然 4 割程度みられる。

中保護者では、「適当」が、前回よりやや増加しているが 1/4 程度であり、「適当ではない」が 6 割近くを占める。「わからない」が増加している。

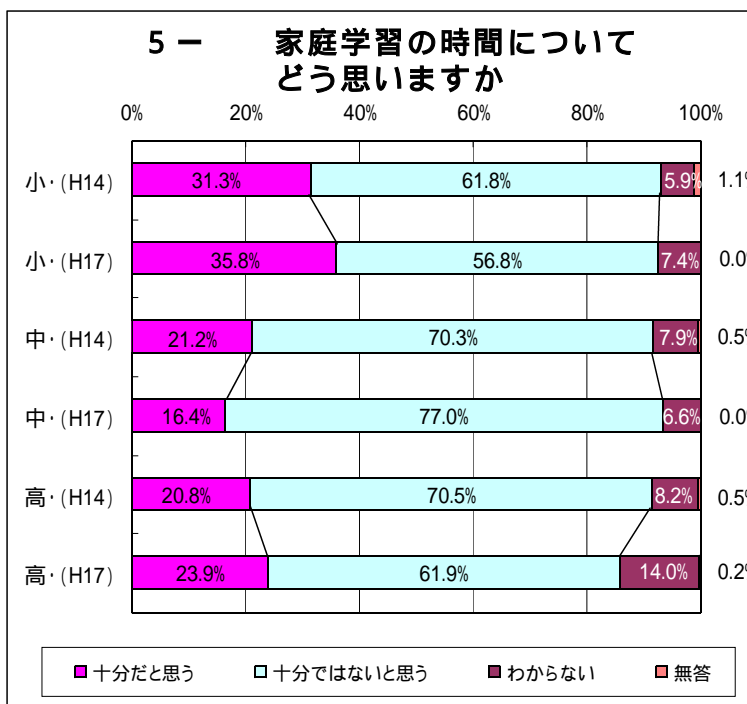
小保護者では、現状に満足している割合が半数を少し上回っているが、中保護者は、現状に必ずしも満足していないことがうかがわれる。

【参考】児童生徒 6 -  
担任 4 -

保護者 5 - お子さんの家庭学習の時間

⇒ 保護者の 6 ~ 8 割程度が「不十分」

小・中・高  
Q8・Q10・Q9



小保護者では、「十分」が前回より増加したが、4 割に届かず、「不十分」が 6 割近い。

中保護者では、「十分」が減少し、2 割を下回り、8 割近くが「不十分」と回答している。

高保護者では、「十分」が増加し、2 割を超えたが、「不十分」が 6 割程度みられる。

全体的に、「十分」が約 2 ~ 4 割程度しかみられず、「不十分」が、約 6 ~ 8 割に上っていることから、保護者は、現状に満足していないことがうかがえる。早急な対応が求められる。

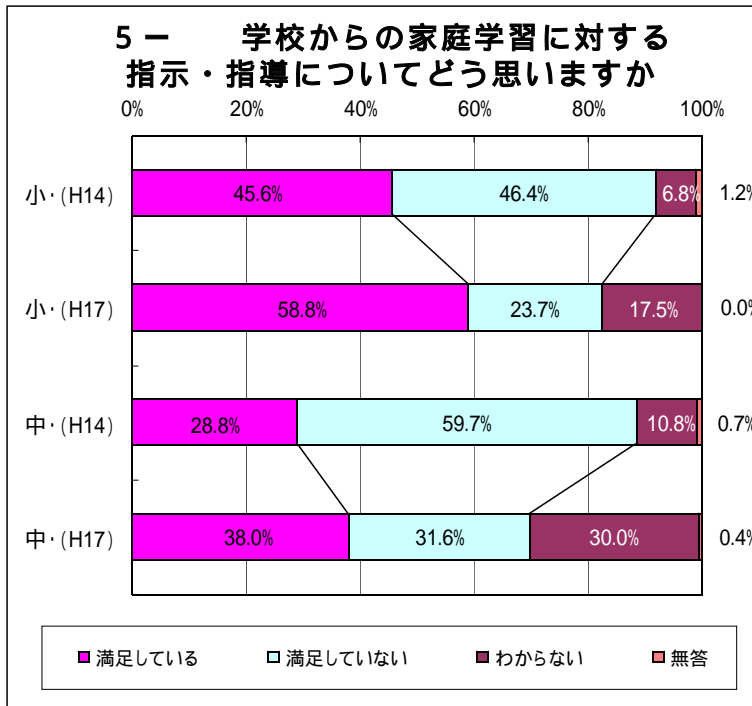
【参考】児童生徒 6 -  
担任 4 -



保護者 5 - 学校からの家庭学習に対する指示や指導

小・中  
Q9・Q11

⇒ 「満足」が、小保護者6割、中保護者で4割



小保護者では、「満足」が前回より増加し、6割近くを占め、「満足していない」が大きく減少している。「わからない」が2割近くまで増加している。

中保護者では、「満足」が4割近くまで増加し、「満足していない」がおよそ半減している。「わからない」が3倍に増えている。

前回と比較して、「満足」が増加しているが、小保護者と中保護者では、満足度に差がみられる。

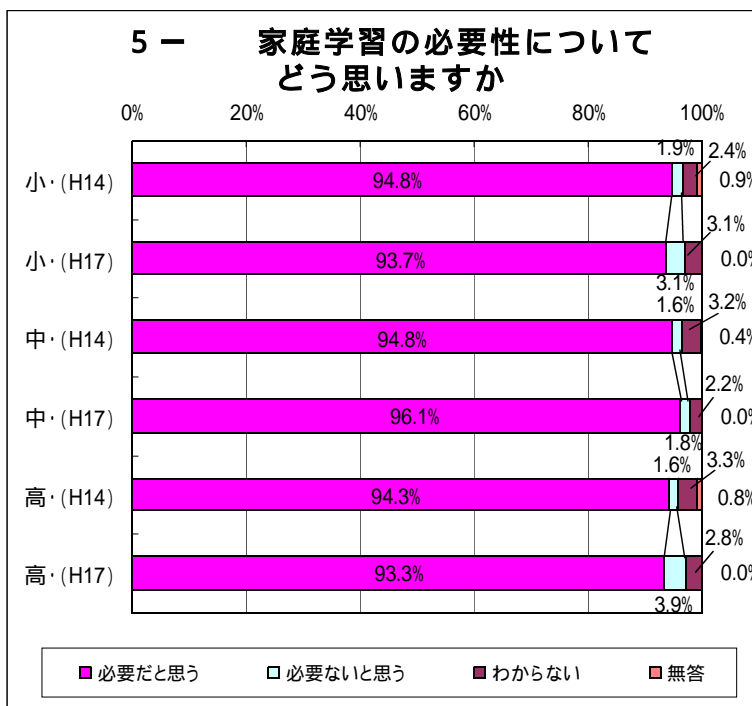
また、「わからない」が増加していることから、その要因について実状を把握する必要がある。

【参考】担任 4 - 、担任 4 -

保護者 5 - 家庭学習の必要性

小・中・高  
Q10・Q12・Q10

⇒ 保護者の9割以上が「家庭学習は必要」



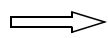
小保護者、中保護者、高保護者とも、9割以上が「必要」と回答している。前回より若干の増減はあるが、高い割合となっている。

校種にかかわらず、保護者は、家庭学習について、その必要性を感じていることがうかがえる。この高い関心にどのように応えているか、前問の「満足度」の結果等も踏まえて、考えていく必要がある。

【参考】児童生徒 6 -  
担任 4 -

## 6 塾について

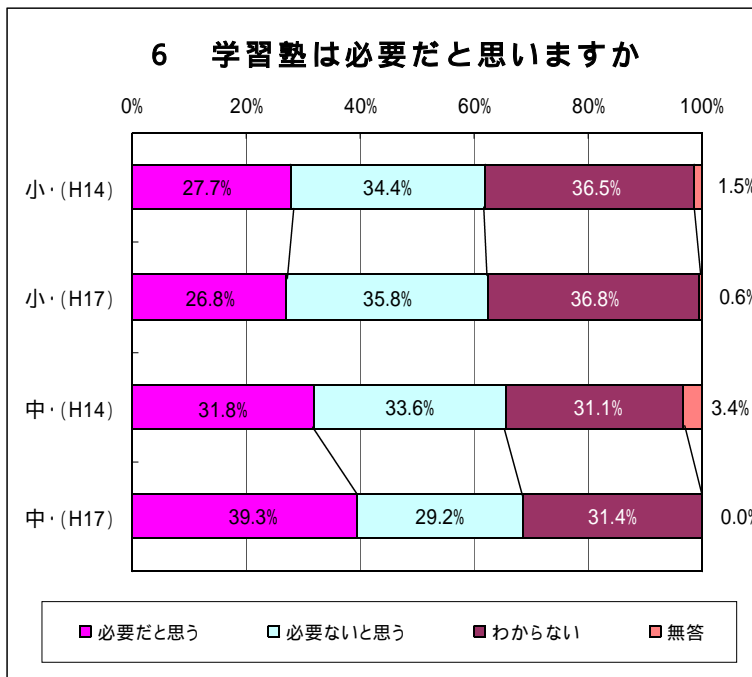
保護者 6 学習塾は必要だと思いますか



「必要」は、小保護者で3割弱、中保護者で約4割程度

小・中

Q11・Q13



小保護者では、前回とほとんど変化がみられない。「必要」が3割に届かず、残りを「不必要」「わからない」が二分している。

中保護者では、「必要」が増加し、約4割。「不必要」がやや減少しているが約3割みられる。

小保護者、中保護者ともに、「わからない」が3割を超えている。

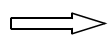
保護者の回答がおよそ三つに分かれていることから、必ずしも塾が必要であるとは思っていないことがうかがえる。

また、「わからない」が多いことから、判断しかねている保護者も多いことが推測される。

【参考】児童生徒7

## 7 子どもとの会話について

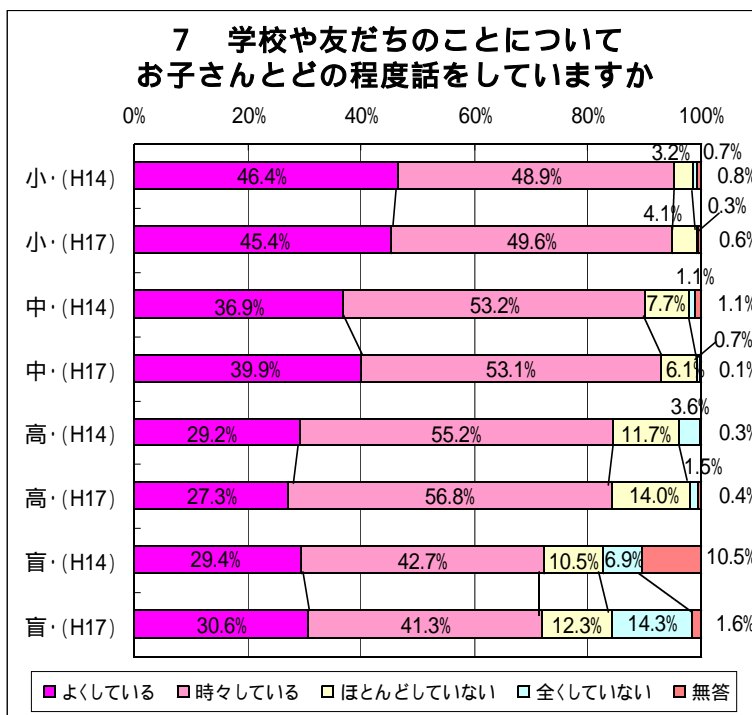
保護者 7 学校や友だちのことについて、お子さんとどの程度話をしていますか



保護者の7～9割が子どもと会話

小・中・高・盲聾養

Q12・Q14・Q11・Q10



小保護者、中保護者の9割以上が、「話をしている」と回答しているが、「よくしている」は、その半分以下である。

高保護者では9割弱、盲聾養保護者では約7割が「話をしている」と回答しているが、「よくしている」は、ともに3割程度である。

「話をしている」割合は、どの校種も前回と大きな違いはみられない。

どの校種でも、比較的に子どもと会話をしていることがうかがえる結果であり、校種にやや差はみられるが、望ましい傾向といえる。

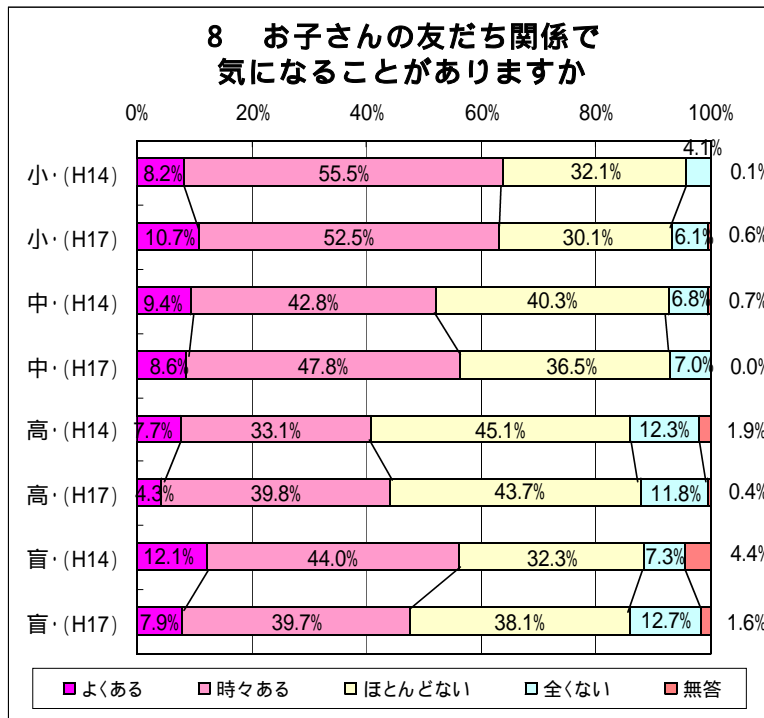
## 8 子どもの友だち関係について

保護者 8 - お子さんの友だち関係で気になることがありますか

小・中・高・盲聾養

⇒ 「ある」が中・高保護者で増加傾向

Q13・Q15・Q12・Q11



小保護者では、前回とほぼ変わらず、約6割が「ある」と回答し、中保護者では前回より増加し半数を超え、高保護者では、4割近くに増加している。

一方、「ない」という回答も多く、特に高保護者では、半数を超える。

盲聾養保護者では、「ある」が減少し、半数を占める「ない」が増加傾向にある。

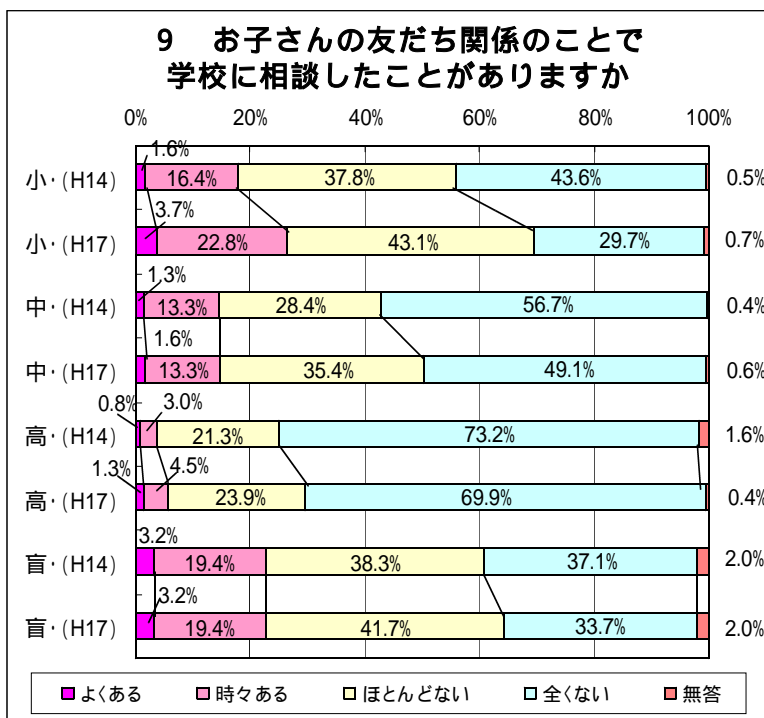
どの校種においても、約4～6割の保護者が、友だち関係で気になることがあると回答していることから、その要因等について、把握し、適切な対応をしていくことが求められる。

保護者 8 - お子さんの友だち関係のことで、学校に相談したことがありますか

小・中・高・盲聾養

⇒ 高保護者、「ある」は1割以下

Q14・Q16・Q13・Q12



小保護者では、「ある」が前回より増加したが、2割程度である。

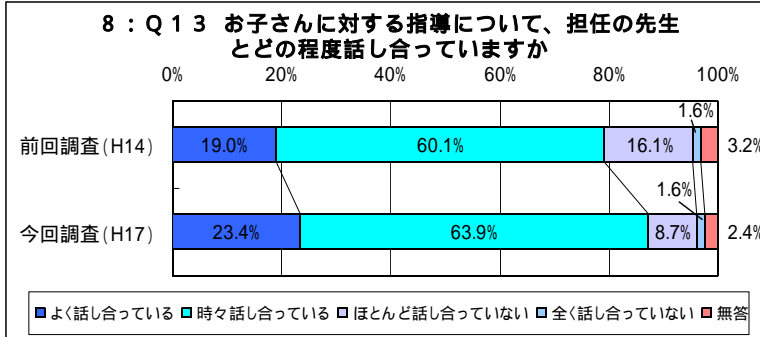
中保護者は、「ある」は前回とほぼ同じで、8割以上が「ない」と回答している。

高保護者では、「ない」が9割を超えている。

盲聾養保護者は前回とほぼ同じ割合となっており、8割近くが「ない」と回答している。

高保護者の「ある」が1割を下回るなど、全体的に学校に相談したことがある割合が非常に低いことがうかがえる。保護者が学校に相談しない要因について把握し、適切な改善策を講じていくことが求められる。

保護者 8 - お子さんへの指導について、担任の先生とどの程度話をしていますか  
 盲聾養  
 ⇒ 保護者の9割近くが「話し合っている」と回答  
 Q13



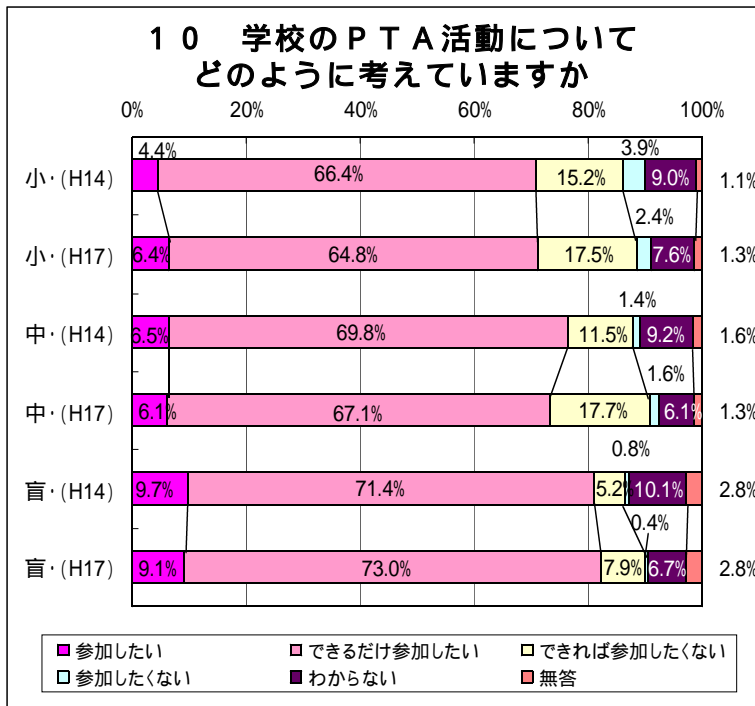
前回と比較して、肯定的な回答が増加し、9割近い。

前回よりも、さらに望ましい方向に向かっていることがうかがえる。保護者の高い意識とともに、担任のより適切な対応など、学校側の努力等を含めた変容があるものと思われる。

【参考】担任 6

## 9 PTA活動について

保護者 9 学校のPTA活動について、どのように考えていますか  
 小・中・盲聾養  
 ⇒ 7割以上が「参加したい」と回答  
 Q15・Q17・Q14



小保護者では、前回と変わらず「参加したい」が7割程度みられる。

中保護者では、「参加したい」が、前回よりやや減少しているが、小保護者より多い。

盲聾養保護者では、「参加したい」が少し増加し8割を超えている。

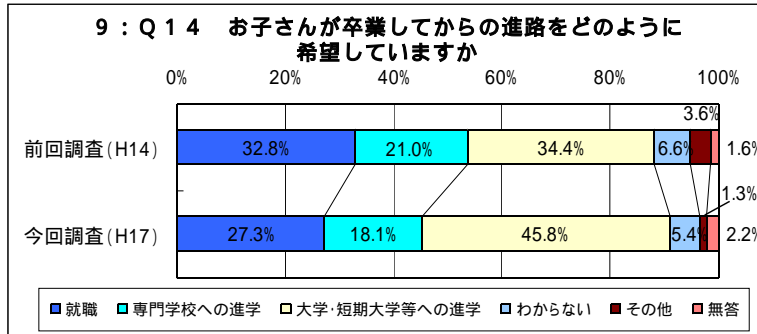
全体的に、「参加したい」が7割を超え、よい傾向にあるといえるが、前回より、少しずつ「参加したくない」が増えてきている。

今後、保護者の意識の啓発等、必要な手立てを講じていくことが求められる。

【参考】担任 7

## 10 進路の希望について

保護者 10 お子さんが、高校を卒業してからの進路をどのように希望していますか  
 ⇒ 「大学・短期大学進学」が増加、生徒の希望と一致  
 高 Q14



前回は、「就職」と同程度であった「大学・短期大学への進学」が、今回、半数近い割合を占めている。一方で、「就職」「専門学校への進学」が軒並み減少している。

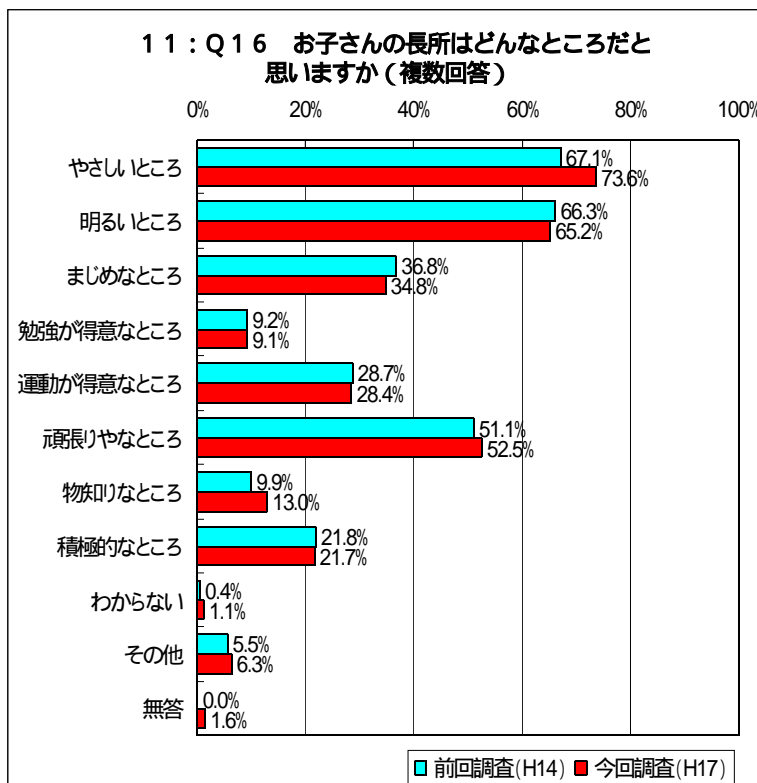
高保護者の回答は、高生徒自身の回答とほぼ同じ傾向がみられることから、親子の進路における希望が一致していることがうかがえる。

【参考】児童生徒 8 -

## 11 お子さんの長所について

保護者 11 お子さんの長所はどのようなところだと思いますか（複数回答）  
 ⇒ どの校種でも「やさしいところ」「明るいところ」が上位  
 小・中・高・盲聾養  
 Q16・Q18・Q15・Q15

小学校



《小学校》

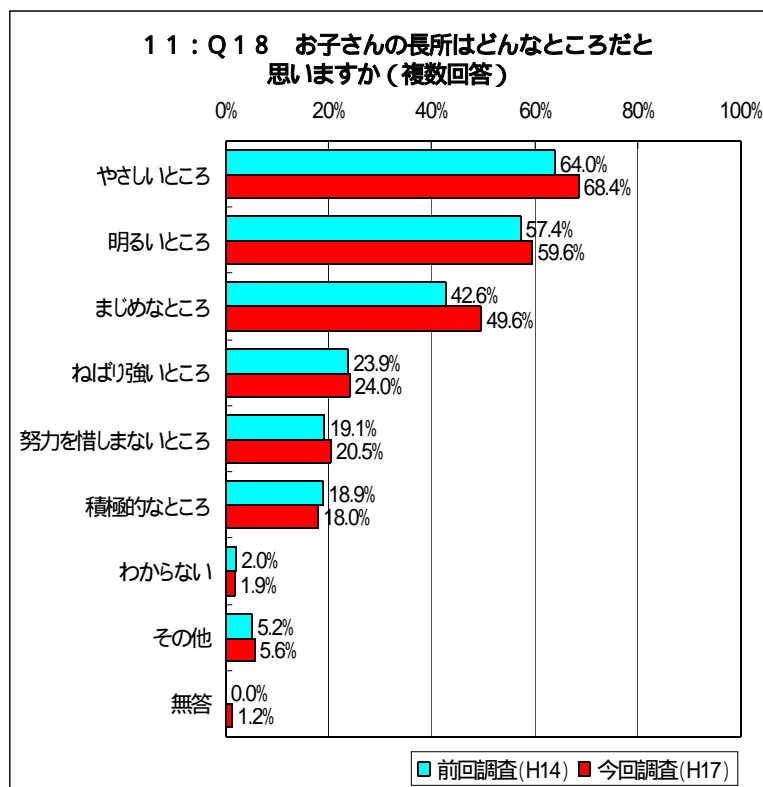
前回、一番多かった「やさしいところ」がさらに増加し、7割を超えている。「明るいところ」「頑張りやなところ」など、全体的に前回とほぼ同じ傾向である。

小保護者がみる自分の子どもの長所は、前回と同じで、「やさしいところ」「明るいところ」等である。また、「頑張りやなところ」とみている保護者は半数みられるが、「勉強が得意」とみている保護者は少ないことから、小保護者は、結果にかかわらず何事にも頑張るところを評価していることがうかがえる。

また、前回と比べて、保護者がみる小学生の姿に大きな変化がみられないことがわかる。

【参考】児童生徒10、児童生徒12  
 担任 8

中学校



《中学校》

前回と比較して、ほとんどの選択項目において、割合が増加している。

「やさしいところ」「明るいところ」が約6～7割を占め、「まじめなところ」も約半数になる。

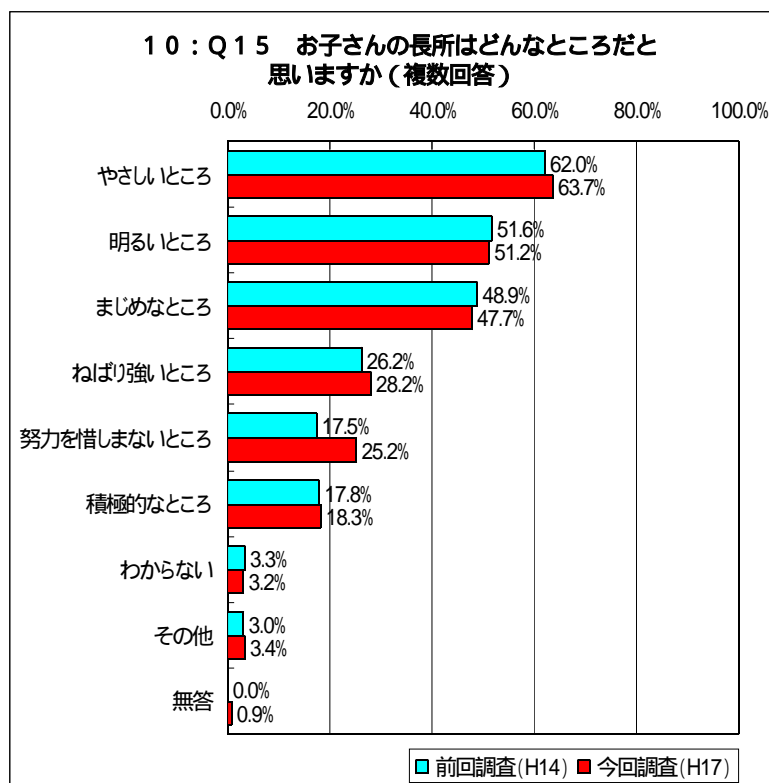
「積極的なところ」がわずかに減少している。

中保護者がみる自分の子どもの長所は、前回と同じで、「やさしいところ」「明るいところ」「まじめなところ」等であるといえる。

積極性やねばり強く努力していく面等でやや物足りなさを感じているものの、全体的に、よい方向に中学生が伸びてきていることがうかがえる。また、前回と比べて、保護者がみる中学生の姿に大きな変化がみられないことがわかる。

【参考】児童生徒10、児童生徒12 担任 8

高等学校



《高等学校》

前回と比較して、割合の多い項目に、大きな変化はみられない。

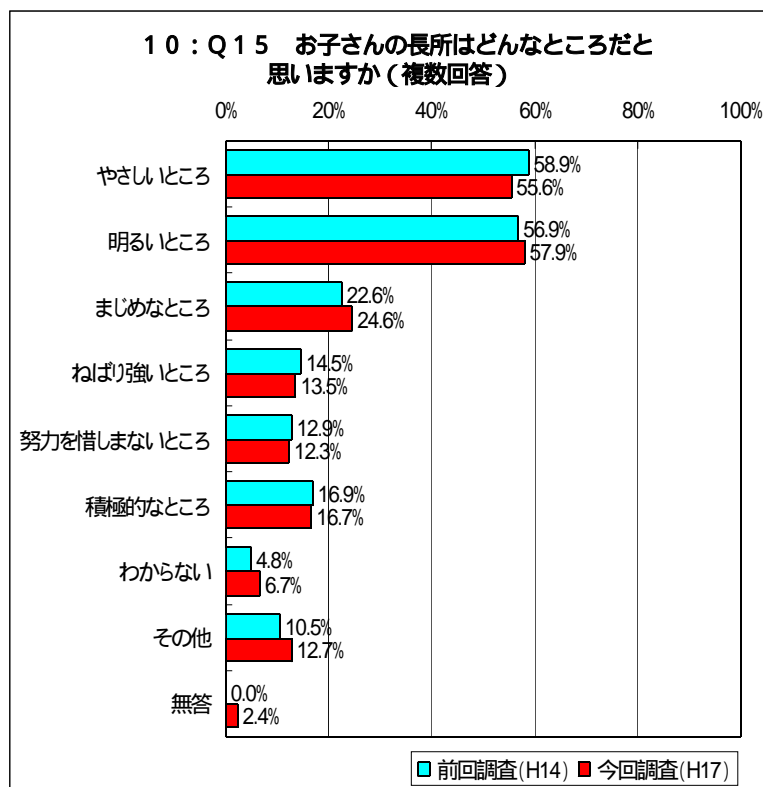
「やさしいところ」が6割を超え、「明るいところ」「まじめなところ」も約半数を占める。「ねばり強いところ」「努力を惜しまないところ」も増加傾向にあるが、3割に届かない。

高保護者がみる自分の子どもの長所は、前回と同じで、「やさしいところ」「明るいところ」「まじめなところ」等であるといえる。

「努力を惜しまない」「ねばり強いところ」の増加により、前回より、ひたむきに頑張る高校生の増加がうかがえることから、望ましい状況にあるといえる。

【参考】児童生徒10、児童生徒12 担任 8

盲聾養護学校



《盲聾養護学校》

前回と比較して、割合の多い項目に、大きな変化はみられない。

「やさしいところ」「明るいところ」が半数を超え、目立って上位を占めている。

「まじめなところ」がやや増加しているが、上位2項目の半分以下の割合である。他の項目は、1～2割程度と低い割合となっている。

盲聾養護保護者がみる自分の子どもの長所は、前回と同じで、「やさしいところ」「明るいところ」にほぼ集約される。項目によっては、校種の特性もあり、保護者の思いや願いに必ずしも届かない部分も想定されることから、担任との連携により、長所や成長等を多面的にとらえ、保護者と共有しながら指導を進めていくことが求められる。

【参考】児童生徒10、児童生徒12  
担任 8